東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学による
文理協働型グローバル人材育成プログラム

都市化と貧困 なぜスラムは拡大するのか

貧困を世界からなくす。疑いようもなく重要な目標です。では、どうすればいいのでしょうか。国際ボランティアに参加する？　公的援助をつぎ込む？　資本を投じて開発する？　しかしまずは、GDPや貧困率といった数字の背後にある貧困のリアルな「すがた」を知るべきではないでしょうか。ここでは都市貧困とスラムに着目してみましょう。

都市化とスラム

2008年、世界の都市人口はついに農村人口を上回りました（図1）。1950年以降の都市人口の増加は、大部分が第三世界で生じています。現在までに、ジャカルタ（インドネシア）、サンパウロ（ブラジル）、カラチ（パキスタン）、ラゴス（ナイジェリア）など、20以上の第三世界の都市がメガシティ（人口1000万人以上）に成長しました。

ところが、発展途上国の都市成長は、多くの場合、それに見合うだけの工業化や経済発展を欠いているため、貧困層の増加とスラムの拡大を伴って進んでいるのが実情です。発展途上国のスラム居住者数（図2）は、1990年代に7億人を超え、2012年には9億2300万人に達しました。都市人口にたいする比率は、1990年以降に15%ほど減少しています。しかし、スラム居住者の絶対数が継続的な減少に向かっているかはまだ不明であり、少なくともサハラ以南アフリカは減少に転じていません。

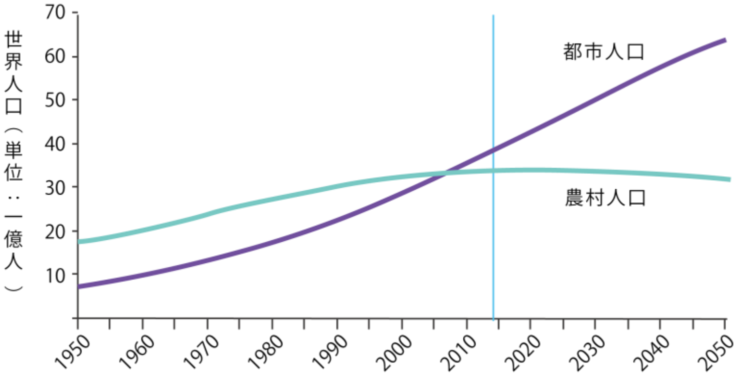

図1：世界の都市人口と農村人口、1950年～2050年
UN-DESA, World Urbanization Prospects Highlights 2014から 引用（一部修正）

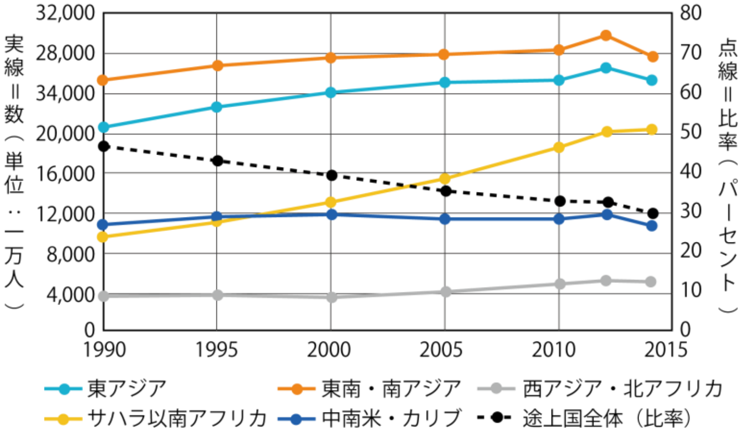

図2：発展途上国の都市人口におけるスラム居住者の比率
UN-Habitat, Slum Almanac 2015-2016より作成

第三世界の都市貧困の要因

経済成長という牽引力がないにもかかわらず都市人口の増加に拍車がかかるのは、発展途上国の経済自由化の影響と見られます。1970年代の景気変動の影響で、1980年代前半に多くの国が債務危機に陥り、構造調整プログラムやIMFの融資条件に従うことを強いられました。その結果、第三世界の農業はグローバルな市場競争にさらされ、立ち行かなくなった中小の農業生活者が都市に流れるようになりました。

スラムの諸類型

典型的なスラムは、中間層が郊外に移り、貧困者や失業者が都市中心部に集中することで形成されますが、すべての場合がそうとは限りません。郊外の低所得者向け集合住宅がスラム化することもあれば、貧困者が特定の街区に集中せず、さまざまな区域の安アパートや簡易宿泊所や路上などに散在していることも多くあります。いまや世界の都市貧困者の大半は、既存の都市の周辺部に、インフォーマルな（非公式の）占拠者として住むか、地主や企業などが法的基準を無視して提供する環境劣悪な土地に居を構えることで、新たな都市空間を構成しています。農村や漁村が、土地収奪や環境破壊を伴う開発をつうじてスラムに変わることもあります。こうしたさまざまなスラムは、市場の変動、法規制を無視した開発、セーフティーネットからの排除、災害、武力紛争など、多様な要因によって作り出されます（参考文献：M. デイヴィス『スラムの惑星』明石書店、原書2006年刊）。

考えてみよう

- ✓ スラムとは何でしょうか。上記の情報を手がかりに、自分なりに定義してみましょう。
- ✓ 都市貧困層やスラム居住者にたいして、さまざまな固定観念や先入観を持つことで生じる問題点にはどんなものがあるでしょうか（救済されるべき悲惨な人々、非行や犯罪に手を染める危険な人々、制度に頼らず自助努力するたくましい人々、など）。
- ✓ 何が都市貧困の要因であり、どのような解決策がありうるでしょうか。